全国学力学習状況調査の結果から

今年度実施された全国学力・学習状況調査の学力調査及び児童質問紙調査の結果から、本校の子どもたちの強みや成長している成果が見られるとともに、今後の指導に生かしていくべき課題も確認することができました。

【成果】

国語では、漢字を文の中で正しく使う力や、文章を読んで理解したことをもとに自分の考えをまとめる力が身に付いていることが分かりました。また、「文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書いている」と回答した児童の割合が全国平均を上回り、根拠をもとに考えを表現しようとする意識の高さがうかがえます。日頃から取り組んでいる読書活動や「かまあいトーク」「かまあいタイム」「学びの作法」など話し合い活動、発表活動や文章を書く学習の積み重ねが成果として表れていると考えられます。

算数では、小数や分数に関する基礎的・基本的な知識や技能の定着が見られました。また、「分からないことがあっても、あきらめずにいろいろな方法を考える」と回答した児童の割合が全国平均を上回り、粘り強く課題解決に取り組む姿勢が育っていることが分かりました。

「自分で学び方を考え工夫することができる」「友達と協力して課題解決に取り組んでいる」と回答した児童の割合も全国平均を上回っており、本校が大切にしている対話的な学びや探究的な学習の成果が表れていると考えています。

【課題】

学力面では、国語において複数の資料や情報を関連付けながら内容を読み取る力、算数において図形の性質や数量の関係をもとに筋道を立てて考える力に課題が見られました。また、国語・算数の両教科に共通して、自分の考えを根拠とともに分かりやすく説明したり、学んだ知識や技能を活用して課題を解決したりする力をさらに高めていく必要があります。今後は、資料を比較しながら考える学習や、「なぜそう考えたのか」を説明する活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成に取り組んでいきます。

児童質問紙調査では、自ら学ぶ力の育成という成果が見られる一方で、SNS や動画視聴の時間が長い傾向も見られました。学力の定着や読解力の向上には、学校での学習だけでなく、家庭での継続的な学習習慣が欠かせません。宿題や自主学習への声かけ、学習後の見届け、学習や読書など習慣づくりなど、日々の積み重ねが子どもたちの確かな学力につながります。特に、「今日はどんなことを勉強したの？」「どんな問題が難しかった？」といった保護者の皆様からのはたらきかけは、子どもたちの学習意欲を高める大きな力になります。

今後も学校では、「自分で考える力」「仲間と学び合う力」「最後まで粘り強く取り組む力」の育成を目指し、授業改善と学習環境の充実に努めてまいります。子どもたちの確かな成長のためには、学校と家庭が連携しながら支えていくことが大切です。家庭学習の見届けや励ましの声かけ、基本的な生活習慣の定着にご協力いただきながら、子どもたちの学びをともに支えていきたいと考えています。